

重点2 自分の考えを文章等で表現する力の向上

◆全国学力・学習状況調査の問題形式に着目すると… (上段：平均正答率、下段：無解答率)

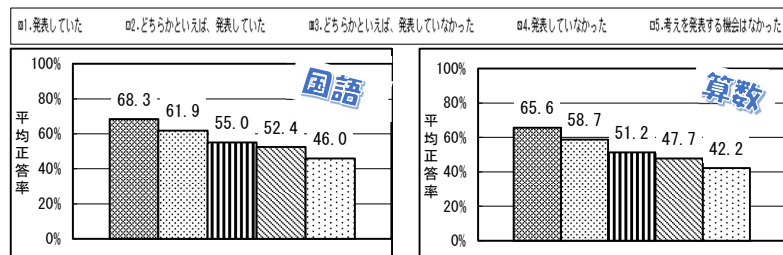
	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学	あなたの学校	
					国語	算数・数学
選択式	63.1	57.5	74.2	60.9		
	2.1	3.4	0.4	0.8		
短答式	59.6	61.2	55.8	66.5		
	7.9	3.9	7.6	4.8		
記述式	53.1	48.9	46.2	41.4		
	12.4	4.8	13.3	27.5		

▶問題形式に着目すると、選択式や短答式に比べて、記述式の問題の平均正答率が低く、無解答率は高い傾向にあります。

◆児童・生徒質問調査の自分の考えを整理することに関する問いに着目すると…

児童質問調査(38)と小学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

(38)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」



▶自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童ほど、国語、算数の平均正答率が高い傾向が見られます。
※中学校の国語、数学、英語の調査でも同様の傾向が見られました。

丁寧な分析をするためには、正誤の結果だけを見るのではなく、それぞれの子どもたちの解答状況を把握することが大切です。無解答だった場合も問題が難しかったのか、時間が足りなかったのか…子どもによって要因は様々です。子どもたちの実態を把握する一助として、国立教育政策研究所が出している各教科の「報告書」を活用し、「解答類型」を参考にして学校の先生方全員で分析するのもよいですね。

今年度の小学校国語2四を用いて校内研究で分析することをイメージしたスライド資料を作成しました。各学校で分析をする際の参考にしてみてください。

教科担当、該当学年だけでなく、学校全体で分析することが大切です！



理解を深める

つまずきの原因を探る

出題意図や傾向を把握する

授業改善に活かす

STEP①
問題を
解く

STEP②
誤答例を
分析する

STEP③
報告書を
読む

STEP④
授業改善策を
検討する

まずは先生方が問題を解き、何の資質・能力が身に付いているかどうかをみる問題なのかを考えましょう。

①なぜ誤答になるのか？
②自校では、どの反応率が高いか？
③どこにつまずきがあるのか？
④そのつまずきはなぜ起きたのか？
※具体の解答を分析しましょう！

問題の趣旨を確認して、解答類型と反応率に注目して分析しましょう。

「学習指導に当たって」や「授業アイデア例」を基に授業づくりにおいて大切な視点は何かを検討し、学校全体で共有しましょう。



詳しくはこちら▶



子どもたちの解答状況を把握した後は、自身の授業を見直すことが大切です。「国語」以外の授業においても、次のチェックポイントで確認してみましょう。

CHECK!!

- 単元で育成を目指す資質・能力が明確になっている。
- 指導事項の内容が身に付くような学習課題・言語活動が設定されている。
- 言語活動では、目的意識や相手意識が明確になっている。
- 具体的な手立てを講じた上で、言語活動がなされている。

ただ「やっている」という状況にならないように、ペアやグループで行う理由を全体で確認することが大切です。



授業改善のヒント!

全国学力・学習状況調査の問題や「授業アイデア例」を読み、どのような課題設定がなされているのか、言語活動を行う際に教員がどのような支援や手立てを講じているのかを確認しましょう。

教員が意図的・計画的に授業を構想し、実施していくことが、子どもたちの力の育成につながります。

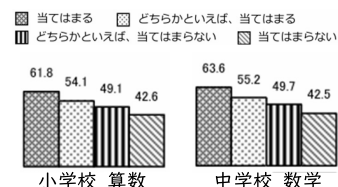
文章で自分の考えを表現する力に育てるためには、他にも何かあるのかな？

「読書」についての児童・生徒質問調査結果はどうだろう？
「読むこと」と「書くこと」にはどんな関係があるのかな？



◆児童・生徒質問調査の「読書」に関する問いに着目すると…

児童・生徒質問調査(31-2)「読書は役に立つと思いますか。」と算数・数学の平均正答率とのクロス集計



▶国から示された左の結果からもわかるように、「読書は役に立つ」と考えている児童・生徒ほど、算数と数学の平均正答率が高い傾向が見られます。
※小学校国語、中学校国語及び英語においても同様の傾向が見られました。

☆文部科学省・国立教育政策研究所の結果(概要)によると、「『読書は役に立つ』に関する回答と『課題解決に向けた積極性』『地域や社会への寄与意識』に関する回答の間には相関がみられる」とあります。

今求められている「読む力」とは？

様々な文章を読んで、そこに含まれる情報の信頼性や情報同士の形成を確かめ、自分の考えをもつ力

- ・国際的にも育成が求められているが、課題が見られる。
- ・現行の学習指導要領でも育成を目指している。



国語での指導に当たっては、次の2点がポイントです！

- ・【思考力・判断力・表現力等】「C読むこと」の事項における系統的な指導
- ・【知識及び技能】の事項と関連付けた指導



考えてみましょう!

子どもたちの「読む力」を育むために、授業で意識していることはありますか？具体的に書きましょう。



POINT!!

自分の考えを文章等で表現する力の向上のためには、子どもたちの解答状況を把握するとともに、「報告書」や「授業アイデア例」を活用して自身の授業改善に取り組むことが大切です。そして、学習指導要領の指導事項を確認し、系統性を意識して指導しましょう。